

こどもたちが取材に出掛け、
記事を制作しました！
こどもたちの作った
紙面をご覧ください



えもんみつけ!

～市民レポーターのページ～

夏休み 特別企画

こども市民
レポーター

こども市民レポーターの皆さん



広報こまきで掲載されている「市民レポーターのページ・えもんみつけ」は、市民レポーターが市内の企業や商店、イベントなどを市民目線で紹介するページです。

今号では、夏休み特別企画として、市内の小学5、6年生の児童10人が「こども市民レポーター」として「バイオス小牧」と「竹藤商店」を取材・撮影し、紙面を制作しています。

この企画で初めて顔を合せた10人。当初はぎこちなさもありましたが、いつの間にか仲良しになり、昔から友達だったかのような雰囲気…。夏休みの宿題の読書感想文より真剣に取り組んだ!?こどもたちの記事をぜひ、ご覧ください。

1

募集の案内をみて

応募

2

研修日 7月19日

記事の書き方や、一眼レフカメラの使い方
の講座を受け、取材先の事前調査な
どをしました。

3

取材日 7月22日、24日

熱中症対策を万全に、いざ取材。真剣に
メモを取り、質問をしてきました。

4

編集日 8月6日

記事を作り、写真を選び、キャッチコピー
を考える。協力しあって、頑張りました。

ごみの救世主！バイオス小牧 Wリサイクループ



大きなメタンタンクの前で

バイオス小牧は2017年に設立された、食品リサイクルとバイオガス発電に取り組む企業です。バイオス小牧ではどのように食品リサイクルやバイオガス発電を行っているのでしょうか。実際に行って聞いてきました。

バイオス小牧は、食べ残しや売れ残りから出る食品廃棄物を発酵タンクで発酵（メタン発酵）させてバイオガスを作り、そのバイオガスを使って再生可能エネルギーとして発電・供給をする取組をしている会社です。

バイオス小牧は、JFE エンジニアリンググループの中京圏初の拠点として、2023年2月から操業を開始しました。

小牧市のリサイクル率は愛知県下の市の中で8年連続1位となるなど環境への意識が高く、再生可能エネルギーの導入にも積極的な地域です。一方で、全国的には「食品廃棄物」という資源が有効活用されておらず、長年の課題となっていました。バイオス小牧は、こうした地域のリサイクルニーズと地産地消の資源循環システム構築に向けた取組が合致する形で生まれました。

メタン化

メタン化とは、生ごみを微生物の力でメタン発酵をして発酵することを言います。メタン化の方法を細かく分けると、まず最初に生ごみが土間ピットに運ばれ、捨てられた食べ物を受け入れます。次に破砕機に生ごみを入れ粉々にします。生ごみを酸発酵槽に送り、微生物が食べやすくした後、発酵タンクに送ります。タンクの中は約37度で人間の体温とほぼ同じ温度です。使用している発酵タンクの高さは約20m、上下に大きく分かれていて下で微生物が生ごみを食べバイオガスを発生させます。上にバルーンがあり、バイオガスがバルーンの中に入りふくらみます。たまったバイオガスは、ガス発電機に送られます。メタンガスを発電に利用して電気を生み出します。生み出した電気を売電します。発電に使った水をきれいにして河川に流せるようになります。

バイオス小牧の目指すもの

バイオス小牧は「Wリサイクループ」というものを目指しているそうです。「Wリサイクループ」とは、食品廃棄物を電気・肥料にリサイクルし、環境にやさしいリサイクルの環をつくる取組で、電力ループと農業ループの二つの環のことを指します。

電力ループとは、発電した電気が食品工場や飲食店で使われ、そこで出た廃棄物をリサイクルループとは、農家が作った作物が飲食店や排出事業者で作られた肥料を用いて作物が作られることです。発電で使われるメタンガスの発生後、消化液を脱水処理することで肥料が作られます。電力ループと農業ループは「Wリサイクループ」として深く関わり合っているのです。

バイオス小牧は「Wリサイクループ」を目標とし、私たちの住む地球のために日々前進しています。

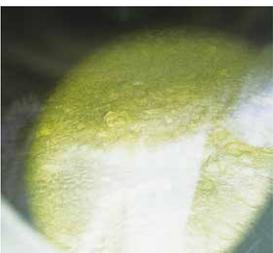


▲袋に入れられた残りかすは、肥料として売ることによって農業ループが作られます。

▼バイオガスを発生させる過程で出た残りかすが運ばれ、袋に詰められます。



ごみを積んだトラックがここ（土間ピット）に食品廃棄物をおきます。これをフォークリフトで破砕機に運びます。土間ピットにある生ごみを粉々にして微生物が食べやすくしています。



発酵タンクの中で、微生物の力でメタン発酵をしている様子です。

今回の取材先

株式会社バイオス小牧

場所：下末野本3080
電話：48-220088

知られざる竹と石の存在感



イギリスに伝わる石積みの技術を教える

竹藤商店は、大正元年に創業した造園資材会社です。日本各地や世界中から集めた種類豊富な石の仕入れ、販売をしています。どのような歴史、経験、工夫、秘密があるのでしょうか。こども市民レポーター5人で取材してきました。

大正元年に秦野藤十により創業した竹藤商店。藤十の字を取り竹藤商店になりました。現在、20人の従業員が働いています。会社を立ち上げた当時は、竹を家の壁や造園で使っていました。国産だけでなく昭和45年には、台湾・韓国から竹・石材の輸入を開始しました。しかし平成7年に起きた

阪神淡路大震災により、昔ながらの建築材としての竹の使用量が激減。建築用の資材から造園資材中心に変わり、現在では、竹以外の資材も多く扱っています。日本国内のほか、中国、イギリス、アメリカ、南米、イタリア、ベトナム、インドなど世界19か国300社以上から取り寄せた1万点を超える資材が揃い、日本トップレベルの造園用石材卸売会社とな

竹の使い方無限大

りました。今では日本庭園などに使われていることが多い竹です。例えば、日本に三つしかない国宝茶屋の一つ、愛知県犬山市にある「如庵」の修復や、一宮七夕まつりの竹も竹藤商店のものが使われています。また、竹藤商店は、「愛林会」など市民活動団体に竹を粉碎できる機械を無償で貸出することでSDGsにも貢献しています。愛林会は、放置された竹林を伐採し、機械で粉碎。桃ヶ丘小学校の桃の木の肥料として活用しています。



竹藤商店の良質な竹

300万年も地中に埋まっていた木の化石たち。もっ木ではなく石です。



個性豊かな石

世界各国から輸入された石材は、広い敷地にたくさん置かれていて、日本中から業者の人たちが買い付けに来るそうです。大きなテーマパークで使われている石、市民四季の森や市役所など私たちの身の回りの多くの場所で竹藤商店の商品が使われています。同じ種類の石でも、国によって色・形・硬さがちがうため、品揃えが多いほど、目的に合った石を選ぶことができます。そして特徴が印象的なのが、木の化石やアンモナイトなどの化石が中にある石です。

最近では、どんどん減っていく造園業者の職人さんたち

を育てたり、世界のいろいろな造園技術を教えたりして、資材を売るだけでなく取組や、庭・緑と人との豊かな生活の提案などにも力をいれています。業者の人でなくても購入ができます。今回、取材に対応してくれた松田憲親さんは、石の種類や産地などをすべて暗記しているそうで、相談にものってくれます。DIYの際は色々な石があつて楽しめそうです。



さらさらした感触をたぎれいな石

今回の取材先

株式会社 竹藤商店

場所：小牧原新田1-6-20
電話：77-2601

取材の裏側!!

研修

▼初めて会う仲間たちに緊張マックス!これから取材先を決めて、記事の書き方などの研修を受けます。



編集



取材から約10日後。自宅で書いてきた記事を発表して、皆で取り上げる記事を選んでいきます。撮影してきた写真を選び、キャッチコピーは多数決で決めました。パソコン入力も協力して頑張りました。



▲取材先のグループ分けが決まり、ホームページを見ながら、どんな会社なのかを真剣にチェックしていきます。質問したい内容も検討。

取材 バイオス小牧

▼バイオガスタンクの覗き窓に暗幕してもらい、タンク内がしっかり見られました。発酵中のポコポコと湧きでる様子も見られました。



▲「普段は入ることができない現場に潜入!」ということでバイオス小牧から用意してもらったヘルメット、マスク、メガネ、軍手を着用し、なぜかハイテンション。

▼現場は清掃など行き届いていました。多少、臭いもありましたが、エアーカーテンや芳香剤などたくさん工夫がされています。



▲会社内容がとてもよく分かるビデオを見ました。バイオス小牧から出された問題に答えながら、自分たちも質問をして、会社のことを理解しながら、取材を進めていきました。



高杉悠 (味岡小学校5年)
研修日の時は、親がいたから安心してきたけれど、取材日には緊張しました。けれど、編集日には皆と楽しく話し合えて幸せでした。



前田旭陽 (桃ヶ丘小学校5年)
初めて来た時は、少し不安だったけど、少しずつ皆と仲良くなっていった。最後は楽しくやり遂げられました。取材時、土間ピットなど屋内の現場では、臭いが気になる場所もあったけど、皆さんは一生懸命仕事をしてくださったと思います。



山野海翔 (小牧原小学校5年)
研修日の日にあらかじめ質問を11個考え、取材日に質問して丁寧に回答をしていただいたのに、聞くのに精一杯で回答のメモを取るのを忘れてしまいました。もし、次回何かで取材の機会があったら、今度はきちんとメモを取りたいです。



吉河智輝 (小木小学校5年)
研修日は、すごく緊張したけれど、友達ができ良かったです。取材日は緊張したけれど、楽しくケガなく取材できたので良かったです。編集日はキチンとできたので良かったです。



寺村春佳 (小牧南小学校6年)
私は市民レポーターに参加し、仲間と協力することの大切さを感じました。皆で質問内容を考え、それぞれが質問することで、より多くの情報を手で、原稿を書く時もうるうるな書き方にふれることができ、とても勉強になりました。

取材 竹藤商店



▲セメントや接着剤を使わず作るイギリスの伝統的な石積みを見学。竹藤商店ではイギリスの協会で資格取得するための講習会を開き、後継者の育成を支援しています。



▲造園に関する書物が3千冊以上ある商談室で、会社の説明を聞いています。

▼大きな石の中にある化石を探しています。気温35度を超える日でしたが、暑さを忘れ、キラキラした目で夢中になって探索。見つけました。



▶蛇籠作り体験。竹で編んだ籠の中に小ささまざまな石を一つずつ丁寧に隙間から入れていって作ります。一番いい笑顔が撮れました。



バイオス小牧



右から、代表取締役 廣部智己さん、
管理室 間瀬美幸さん、
技術リーダー 小長谷耕平さん、
管理室室長 藤乗隆行さん

熱心に質問してくれました。見学では大人が多いので、こどもたちの反応が新しく面白かったです。リサイクルに興味を持ってもらえるとうれしいです。

竹藤商店



右から、本川義和さん、
代表取締役社長 秦野利基さん、
国際営業部 松田憲親さん

皆、真剣にしっかり話を聞いてくれました。行儀が良くてびっくりです。落ち着いていて鋭い質問に驚かされました。いろいろな事に興味を持ってほしいです。

取材をお願いしました



柳沢 日生 (本庄小学校6年)

竹藤商店を見学してみても、いろんな個性のある石がたくさんありました。竹藤商店の社員さんは、20名いて、あんなに広い敷地にかんりの数の石の名前を把握しているのはすごいなと思いました。

西城 新 (桃ヶ丘小学校5年)

小牧市役所の1階のところにある水のかいで回る石やテーマパークで使われている石をそのままでは見たことはありませんでしたが、触ってみたらいい感触だったので、造園資材の石はきれいだと思いました。

西尾 寛大 (米野小学校5年)

ぼくは、竹藤商店に取材をさせてもらって石材の世界を知ることができました。特に石にも一つ一つ色、形、大きさがあることが印象的でした。これからは石に意識を高めていきたいです。

浅野 拓磨 (小牧南小学校5年)

博物館でも見たことがないようなめずらしい石材を実際に触るなど、貴重な体験ができました。竹と石で作る「蛇籠」づくりは難しかったけれど、楽しかったです。新しいことを学べたので、この事を何かに生かしたいです。

宮田 桃和 (北里小学校5年)

竹藤商店に行ってきたて、とても分かりやすく教えてくれたし、いろいろな質問に答えてくれて、石や竹のことをたくさん知りました。たくさん石材を知り、とてもいい経験になりました。